

2021 2.26 [金]

メディアガーデンプレス

www.mgpress.jp

02 暮らし リボン収益 医療者にも

07-09 特集 山雅に応援メッセージ

11 地域 若者らが地域課題議論

記事中、市外局番のない電話番号は0263地域です

M.G. プレス

Fri. 信州の真ん中から発信

松本市・塩尻市・安曇野市・大町市・東筑摩郡・北安曇郡・木曾郡

【お問い合わせ】〒390-8585 松本市中央2-20-2 ●MGプレス [編集] ☎0263-32-1139 FAX0263-32-3388 [広告] ☎0263-32-5539 FAX0263-32-5599 ●信濃毎日新聞松本本社広告部 ☎0263-32-2860



「HPを変えたい」 紆余曲折経て完成

松本深志高 清水さんら3人主導

松本深志高校2年の清水龍之介さん（17、松本市筑摩）は中学3年生の時、進学を志望していた同高のホームページ（HP）を開いて絶句した。

「ひたすら文字が並び説明調。それもそのはず、清水さんが生まれた2003年に作られたままだった。読みにくく、学校の特徴も伝わってこない。清水さんはそう感じた。「深志に入ったらH

Pを変えたい」。無事に入学を果たし、生徒会に入ると、半年後には中学時代の仲間、佐藤司門さん（17、同市丸の内）と宮沢佳成さん（17、同市梓川）を生徒会に誘い、HP刷新に着手した。

紆余^ま曲折を経て新デザインが完成、3月26日の新入生オリエンテーションで披露する。新旧サイトの切り替えは3月19日以降を予定している。（松尾尚久）

03面に続く

松本絶品
開運老松
開運堂
登録商標

クローズアップ

HP掲載用の校舎の写真を撮影する(左から)清水さん、佐藤さん、宮沢さん

「深志らしさ」内外に情報発信

クローズアップ。(01面から続く)

HP刷新 松本深志高生徒会有志

松本市

その道のプロと

とうれしそうに話した。

清水さん、佐藤さん、

学校の特徴反映

宮沢佳成さんが目指したのは、私立高校のHPに

「なぜHPを刷新する

負けないような質。「コ

の？ 本当に変えないと

ンテンツは生徒が考え、

いけない？」。初回の定

デザインはプロに任せ

例会でKDDI社員らか

る」。その計画を立て、

ら投げ掛けられた言葉

1年の秋に動き始めた。

は、生徒たちにとって最

だが、制作費やセキュリティ

も大きな学びとなった。

ティナーなどの壁にぶつか

「それまで僕は『ど

り、2020年になると

う変えるか』しか考えて

新型コロナウイルスによ

おらず、『なぜ変えるの

る休校で活動そのものが

か』に焦点を置いていな

頓挫した。

かった」と清水さん。問

そんな彼らに追い風が

題の本質とHPにできる

吹いた。昨年8月、県教

ことを探る中で、生徒た

育委員会がKDDI、県

ちは同校の伝統である

立大学と包括連携協定を

「自治」に着目した。

結び、KDDIの物的、

近年、同校では生徒会役

人的支援を得ながら生徒

員の立候補者が出そろわ

が新たな挑戦をする「学

ない、役員選挙の投票数が

校×KDDI共創プロジ

規定数に達しないなどの

エクト」がスタート。清

事例が発生。学校や他人

水さんたちのHP刷新計

対して無関心が広がっ

画はこの事業に採択され

ていて、自治が失われつつ

て息を吹き返した。

あると言われている「深志ら

「ここは情報量が多く

藤さんのを受け、まず

て読みにくいので、分割

「生徒が自治を体現し、ま

して表にできないか」。

た、中学生が深志の自治

生徒が閲覧側の視点に立

を感じられるHP」とい

って指摘すると、デザイ

うコンセプトを決めた。

ナーは解決策を提示。会

目標が固まったことで、

議は2時間に及んだ。

サイト内の幾つかのペー

定例会は昨年10月から

ジを生徒会が管理し、部

毎週のように開催。佐藤

活動や文化祭など生徒の

司門さんは「最近1年

さまざま活動を生徒自

生から積極的に意見が出

らが発信するページを設

るようになった。主体的

ける」といった設計の方

に関わってくれている」

向性も定まっていた。

外部に公的に情報発信

する学校の公式HPの一

部を生徒自ら管理すると

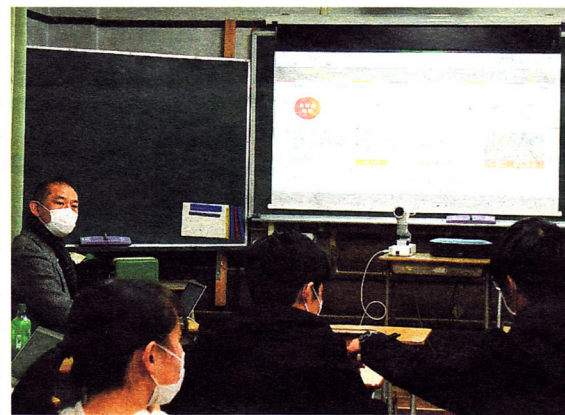
いう、自律的な「深志ら



ウェブデザイナー(左手前)と話し合う清水さん(左から3人目)ら生徒会有志



KDDIの担当者に話を聞く生徒たち(昨年11月13日)



新HPの試作画面を見て話し合う生徒と、サポートするKDDI社員(左奥)

しい」取り組み。「情報を発信したり校内で行われていることを知ったりすることで、生徒が自治を意識するきっかけになれば」と清水さん。「HPを見た中学生に『深志は面白そう』『深志に行ってこんなことをしたい』と思ってもらえたら」と期待する。

HPは立ち上げてからが勝負。「続かなければ意味がないよ。これも、3人の心に刺さったプロの言葉だ。後輩たちもHPの管理運営ができるよう、仕組みやガイドライン作りにも取り組む。

「何年も先のことまで視野に入れていろいろ考えなければいけない」。まず思い立ち、作業を進め、一端は頓挫し、作業を再開して実現、さらに未来へ向け継続の種をまく。今回の取り組みで多くを学んだ3人。ブラッシュアップされたのはHPだけではなかったようだ。